

北海道価値創造パートナーシップ会議 in 苫小牧 ～新たな北海道総合開発計画に向けて～
出席者の意見概要

【「世界水準の価値創造空間」の形成に向けた環境整備・対流促進】

- 世界水準の価値創造空間といっても、世界水準がどのようなものか知っていないと語ることはできない。子供の頃から外国人とコミュニケーションを取るなど価値観の醸成や、グローバルマインドを身につけることが必要。
- 10年、20年先を見据えて、ASEANの国々のリーダー候補を北海道ファンにするため、子供の頃から北海道に留学等で呼び込むといった取組も必要ではないか。
- 農村景観というこれまでに価値のないものに対して、価値を見いだして事業を行っている。北海道にはまだまだこうした魅力が埋もれていると思う。
- 北海道では、食や健康に対する意識、さらには、女性の社会進出に関する価値観が低いのではないかと考える。世界に打って出るには、意識・価値観を変える教育も必要。
- 北海道の一次産品は素晴らしく、加工せずにそのまま売ってもある程度のお金で売れてしまうが、これから北海道の人が暮らしていくためには、付加価値を付けて特産物にしていくことが重要。
- 富裕層の外国人観光客がプライベートジェットで北海道に来ることができるようにする必要がある。多くのチャンスをロスしていると思う。
- 北海道は四季がはっきりしており、リピーターにつながりやすい。日本旅館には、着物・畳・布団等、日本文化が凝縮されており、外国人は興味を持って来館している。
- 冬期間に、道外や海外からの観光客がレンタカーで来るが、雪道に慣れていない。安全な交通のため、こういったレンタカーに何か印を付ければとよいと思う。
- 訪日外国人も個人旅行にシフトしてきており、レンタカーやバス、JRの利用が増加。しかし、バスやJRには大きなスーツケースを収容するスペースが少ない。
- 北海道新幹線開業を来春に控えているが、地域には体験観光メニューが少ない。食を中心した体験観光メニューを作ろうと、一次産業や加工業者と協働で取り組んでいる。
- 高齢者にとって交通は大きな問題。要介護の人から元気な人まで様々な世代が集まる交流サロンを開設しているが、自力で公共機関を利用して集まるのは大変難しい。

【雇用の維持・創出について】

- 知的労働に切り替えるためには、技術面の教育が必要。新しい働き方としてテレワークができてきているのは、個人のコミュニケーション能力の高さや、スキルがあるからである。
- 首都圏を基準とする画一化した制度が、地方には合わないことも多い。地方だからこそやりやすいということを出していければ、優秀な人が集まると思う。
- 障がい者は、若年層が減る中、地域を支える労働力として重要な人材。日本では、障がいがあると隠そうとしてしまう。個性をどんどん伸ばすという取組も必要。
- 地域には働くパワーがあるけど、育児の面で就業が難しいといった人は多い。いつ来ても、いつ帰ってもよいという「わがままパート」という仕組みを作り、従業員に好評。
- 北海道には菓子の原材料が豊富。北海道に進出して成果を上げている製菓業者を参考にし、類似した商品を製造している全国各地の製菓業者を各地域に誘致すれば良いと思う。

- 北海道では製造業の認知度が低く、人材の確保に苦労している。高齢者や女性が働けるように、従業員の健康意識を高めたり、働きやすい作業環境の創出に取り組んでいる。
- 漁業者の高齢化が進んでいる。漁業が儲かり、若い人にとって魅力的な産業になる必要がある。産学官金の連携で研究開発をしなければ、高付加価値化・差別化は難しい。
- 社会福祉の仕事は担い手不足が課題。今後、介護分野では、市民ボランティア活動の参加が期待されると思うので、行政と地域住民と一緒に考えていくべき。
- クラウドファンディング等、資金を集めるための多様なシステムの構築や、起業に失敗した人が再チャレンジできるような仕組みづくりが必要。
- 起業家支援の施策が様々講じられているが、都市で働けない人が地域で起業できるほど新規創業は甘くはない。将来性があり、可能性がある人に、3年ぐらいしっかりと投資することが大事。新規創業から一定の成果をあげるまでには、少なくとも3年は必要。

【エネルギーについて】

- 製造業には安心、安全、安定的なエネルギーが不可欠。節電や省エネ、いかにロスを少なくするか等、毎日一所懸命努力している。長期的には水素等も検討してほしい。
- 電力以外の新しいエネルギーやコージェネレーション等の活用をし、エネルギーの負担が偏らない社会構造に取り組むべき。